



風疹しんが流行

妊婦さんは注意 ワクチンで予防を

風疹は子ども専門にしている小児科医でもあまり見かけなくなった病気でした。ところが昨年から急激に増加しています。特に内科の先生が診察する20歳代から40歳代に多くなっています。これは風疹にかからないための免疫がこの世代の人たちに少ないためと考えられます。今の子どもたちは風疹とはしかのワクチンを2回接種するようになって、すっかり免疫がついています。しかし、今流行している世代の人たちの多くは、予防接種を女性は1回、男性は未接種、また、周りに風疹患者が少なくなつたために、自然に感染して免疫をつけておくことができなかつたことなどで、免疫が弱い、つまり、風疹に感染しやすいと考えられます。

なぜ、こんなに風疹の流行が問題になるのでしょうか。風疹そのものの感染は一般に恐ろしい病気ではありませんが、

妊婦が風疹にかかると、これから生まれてくる赤ちゃん胎児に、眼、耳、心臓などにさまざまな病気をおこしたりするからです。これを先天性風疹症候群といい、妊婦が風疹になるとウイルスが胎児の成長に影響を与えるのが原因です。

風疹はワクチンの接種により完璧ではありませんが、防ぐことができます。特に子育て世代の男性にはワクチンの接種を勧めたいと思います。風疹ワクチンやMRワクチンという風疹とはしかの混合ワクチンで免疫をつけることができます。ちょうどこの世代の人は、はしかの免疫も弱いと考えられますので、MRワクチンを接種して、風疹とはしかの両方の免疫を高めておくのが良いでしょう。

吹田市医師会 西野にし淳司じゅんじ